

ぬかたのおおきみ

【 額田王 惜別の念 】

～ 額田王歌碑からの三輪山眺望 ～



うま酒三輪の山 あをによし奈良の山の

山のまに いかくるまで 道のくま いさかるまでに
つばらにも 見つつ行かむを しばしばも

見さけむ山を 心なく 雲の 隠さふべしや

(反歌)

三輪山を しかもかくすか 雲だにも 心あらなむ
かくさふべしや

この地を離れる額田王が三輪山の姿が雲に隠れて
見えないことを残念に、心残り思う気持ち詠った有
名な万葉歌を記した歌碑は、山の辺の道をこれより
北へいくと三輪山が見えなくなり、振り返って額田王
の心情を察するのに絶好な場所にあります。

(桜井市 穴師)